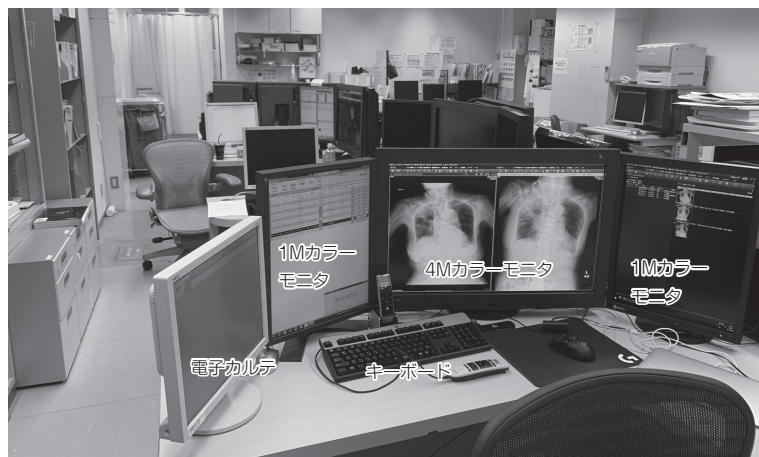


[第12回] 大久保病院

服部貴行 東京都保健医療公社大久保病院 放射線科



読影室全景 (パターン①)

DATA

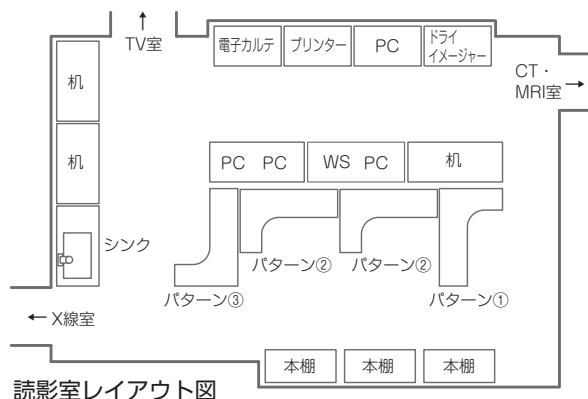
場所：病院4階
読影端末、電子カルテシステム：4台
PACS：GEヘルスケア/富士フイルム
メディカル
レポーティングシステム：ファイン
デックス
電子カルテシステム：NEC
音声認識ソフト：AmiVoice
スタッフ人数：常勤1人，非常勤10人

オープンすぎる読影室

大久保病院の読影室は、長らく個室の環境だったが、2013(平成25)年の電子カルテ更新時に、読影室を現在の場所に移動した。新しい読影室は、「各検査室をつなぐ広い廊下の一部」と表現するのが適切ではないかと思われるほどのオープンな環境にある。このような場所に移動した理由の1つは、気軽に診療放射線技師や他科の医師から声をかけてもらいたいとの思いからだった。

読影端末は4台で、モニター構成は、カンファレンスやマンモグラフィ読影用として使用するための5Mモノクロモニター2面構成が1台で、残りは4Mカラーモニター1面構成である。過去画像を確認するための1Mカラーモニターと電子カルテ端末もすべてに付属している。

AmiVoiceは2台の端末に搭載しているが、積極的に使用しているのは筆者のみのようである。



こだわりの読影システム

電子カルテ端末、レポーティングシステム、そして画像診断ビューアごとにPCがあり、1つのキーボードとマウスで文字の入力や操作ができるようになっている。さらに、レポーティングシステムから、

電子カルテ端末の患者の診察画面や、ワークステーションを起動できるように設定され、PC間をシームレスに操作することが可能である。

また、当院には2つのPACSが稼働しているので、GEヘルスケア社のUniversal Viewerと富士フイルムメディカル社のSynapse Viewerを診断に利用できる。

レポートシステムには、利用頻度の高い機能にショートカットキーをすべて設定した。そのため、AmiVoiceからショートカットキーを利用することで、マウスの移動距離とクリック回数を減らせ、読影効率が向上した。

自慢の椅子

昨今のデスクワークのトピックの1つに、立位で仕事ができるスタンディングデスクがあるが、当院の環境では導入困難だった。そのため、椅子だけはとHermanMiller社製の「Aeron Chair」をどさくさに紛れ導入した。座り心地はよい。いずれは、机の更新もと思っている。



読影室(パターン②)



読影室(パターン③)

after work

当院の住所は歌舞伎町である。歌舞伎町は「東洋一の歓楽街」といわれており、飲食店や映画館、遊戯施設など、ありとあらゆる娯楽施設がある。職場内の交友を深める場所はすぐに見つけられる。筆者が最近ハマっているのは、歌舞伎町1丁目にあるタイ料理屋と、2丁目にあるスペイン料理屋である。いずれも、そのレストランを知らなければ絶対入ることのないビルの中にある。そんなビルの中ですばらしいレストランが点在しているのも、歌舞伎町ならではの楽しみだろうか？



あなたの読影室、紹介してみませんか？

各施設において、読影環境を整えるためにさまざまな工夫がなされていることと思います。「配置」「空間」「照明」など、皆さまのこだわりをぜひご紹介ください！ご応募については下記までお問い合わせください。

clinimage@medicalview.co.jp

※掲載の可否につきましては、編集部にて判断させていただきます。あらかじめご了承ください。